

ときにわオフィス 発掘するリノベーション ～時を刻む木・眠りからさめる木～

設計：ときにわ
333 安田博道・繁岡由美子・干場弓子
制作美術（施工）：nitehi works

横浜にある築60年RC5階建ての一室（住戸）をオフィスに改修したプロジェクトである。インテリアは、湿式の左官壁や木造フレームと建具で仕切っていた。非構造壁（湿式）を取り去り壁内の「きずり」を残しながらプランを調整することでオフィスに変えている。木部を残しモルタル壁を撤去したため、インテリアの荷重は軽くなっている。ここでは、造った過程を引き返すように解体することで空間をつくり出している。いわば通常行われる建設行為と逆向きの建設行為をデザインと考えている。

貼る→塗る→剥がす

間仕切り壁は、木ズリ→左官下塗り（モルタル）→中塗り（モルタル）→上塗り（漆喰）の3工程であった。木ズリを残す部分と、木ズリまで全て取り除く部分とに分けてオフィスのプランに対応するように壁を剥がした。



取付ける→取外す

既存の造り付け家具（下駄箱・キッチン棚）を取外した。剥ぎ取った後が、影のようにむき出しのコンクリート打放し面として残ったが、そのまま表現としている。



揃い→不揃い

通常はフローリングの色・素材・を揃えて貼るがここでは色・素材はバラバラである。使い道のなくなった、他の現場で余ったフローリング板を寄せ集めて使用している。廃材処分を考えて生まれたアイデアである。



新品→中古

既存の柱・鴨居・敷居はそのまま残し壁を剥ぎ取っている。時の刻みをそのままに住宅のスケール感を伝えている。他にも今回加えた棚や作り付け家具は、古材を再利用している。



構築する→解体する

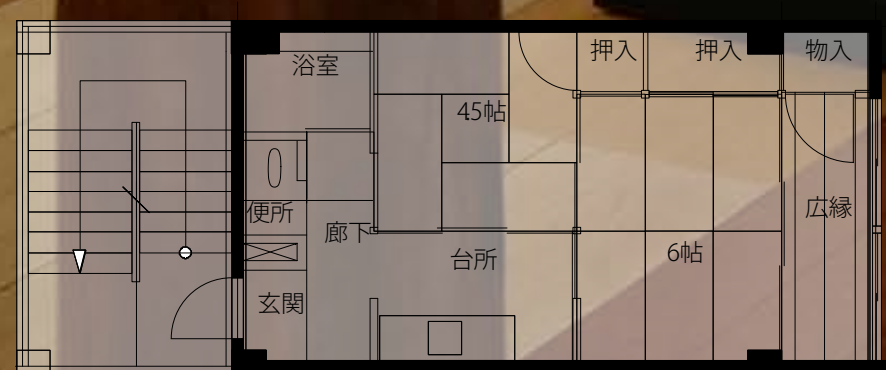
撤去解体については、重量のあるものを減らし、加えるものは軽量のもの（木）、をルールとしている。結果、室内の荷重が2.35t減少し耐震性能の向上に貢献している。



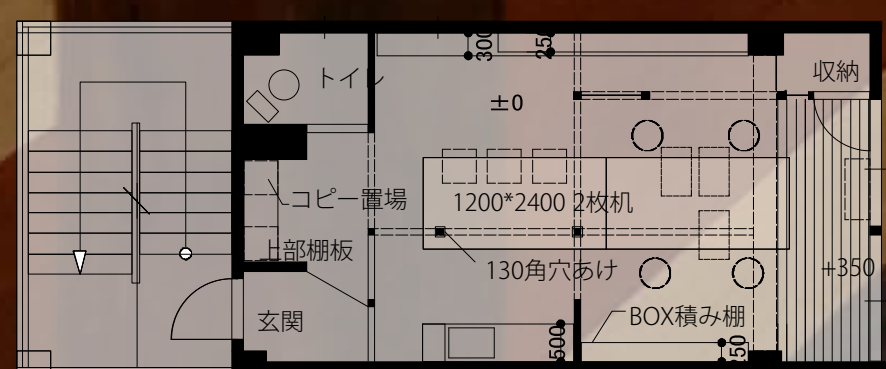
改修前と改修後の荷重・増減表

減	種目	面積(m2)	厚み(m)	体積(m3)	比重t/m3	重量 t
	壁・モルタル	16.5	0.07	1.155	2.1	2.43
	床・畳	17	0.05	0.85	0.4	0.34
	計					2.77
増	増					
	床・フローリング	22.8	0.01	0.228	0.6	0.14
	棚	7	0.03	0.21	0.4	0.08
	小上がり	4.1	0.05	0.205	0.4	0.08
	テーブル	5.7	0.03	0.171	0.7	0.12
	計					0.42

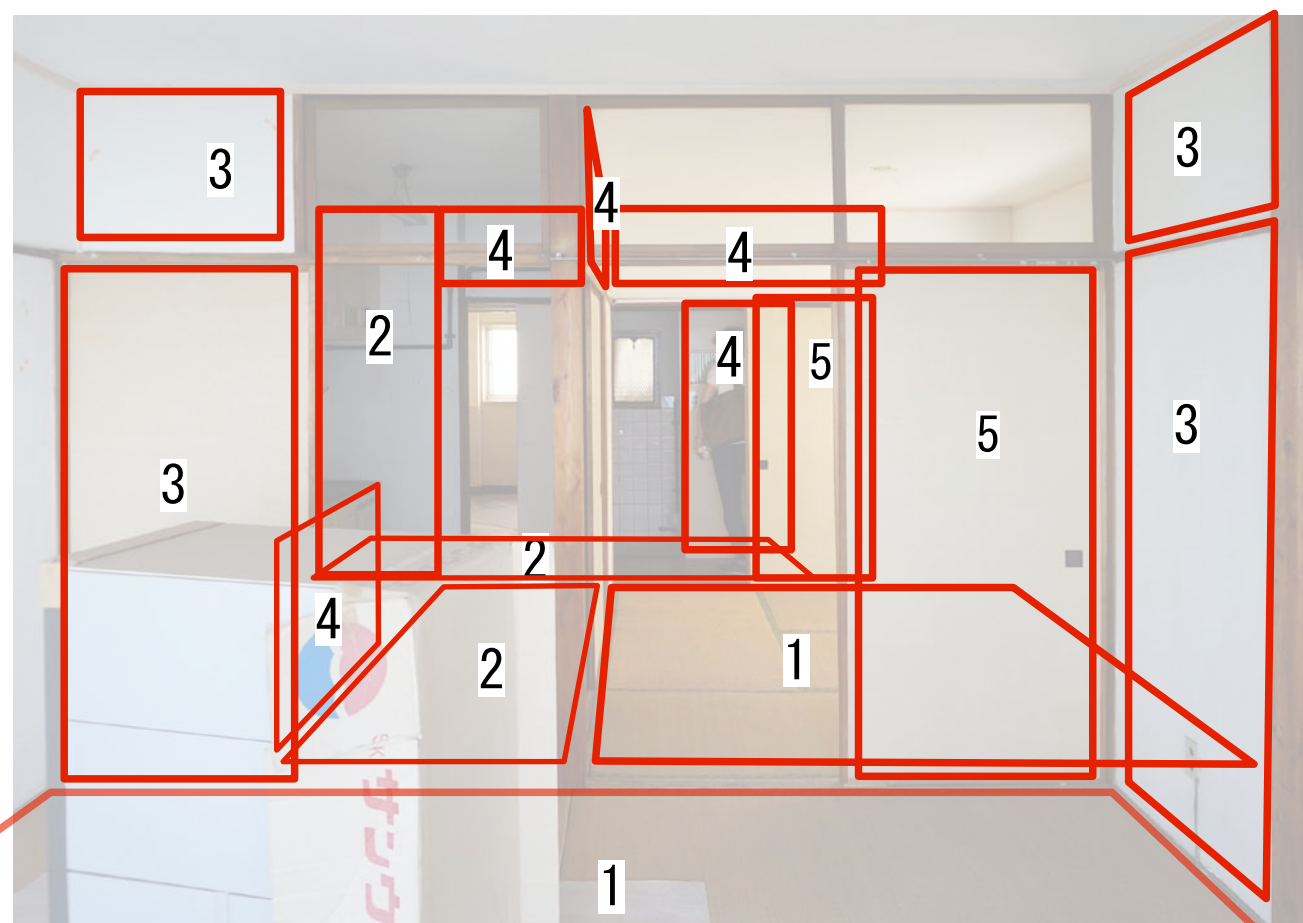
改修後は、室荷重が、 $2.77-0.42=2.35t$ 減少した5



改修前 1/100



改修後 1/100



1・畳撤去 2・フローリング撤去 3・木240 残し撤去 4・壁撤去 5・建具撤去

